

平成 29 年 12 月 26 日

PRESS RELEASE



Japan
International
Cooperation Agency

独立行政法人国際協力機構

□ 内容についてのお問い合わせ

独立行政法人国際協力機構（JICA）沖縄国際センター

市民参加協力課 遊佐 敢（ゆさ つよし）

TEL：098-876-6000 FAX：098-876-6014

<http://www.jica.go.jp/okinawa/index.html>

南城市職員 × JICA 青年海外協力隊 × フィリピン・ビクトリアス市 ＝ 観光促進で町興し！

南城市と、JICA 沖縄との派遣合意¹に基づき、南城市から 2 名の隊員が誕生しました。

南城市の約 10 年にわたる地域ぐるみの観光促進による町おこしの取り組みを背景に、フィリピン西ネグロス州のビクトリアス市に飛び込んでいき、約 2 年間、現地で観光促進に活躍した一人の女性による帰国報告と、これから隊員として派遣される南城市職員による派遣前の挨拶を兼ねた報告会開催のご案内です。

時間 2017 年 12 月 28 日（木）09：00－

場所 南城市玉城庁舎 1 階 応接室

¹ 派遣合意 南城市職員を青年海外協力隊員として 2 代、フィリピンビクトリアス市に派遣する内容。2015 年 5 月署名

南城市とビクトリアス市との関係

JICAの草の根技術協力プロジェクト「沖縄県南城市モデルを活用したビクトリアス市アグリビジネス／アグリエコツーリズム強化プロジェクト」では、南城市・NPOレキオウィングスにより、ハーブ、有機野菜を核とした農業、環境ツアー等による観光促進でビクトリアス市の町おこしへの取り組みへの支援が行われています。本プロジェクトによる協力にとどまらず、南城市職員を青年海外協力隊として派遣する取り組みに発展しています。

仲里みかる青年海外協力隊の誕生

南城市役所職員として、公募に手を挙げたのが、仲里みかるさんでした。「学生時代から、慣れない土地で現地に寄り添い汗水流している青年海外協力隊には興味があった。南城市役所に入庁してからは、要領よく仕事をこなす先輩や上司に囲まれて業務をしてきたので依存しっぱなしの毎日に、これではいけない」という思いが芽生えたそうで「6年目を迎える前、20代のうちに自分自身の力を試すこと、この経験を今後の糧にしたい」との思いから協力隊に応募を決意したそうです。2016年1月からは、寒い福島県二本松市における約70日の語学を中心とした派遣前訓練でみっちり鍛えられ、いよいよフィリピンに到着です。



「必死に準備した活動計画・目的を上司に説明したのですが、英語の壁にぶつかり、伝わらず『そのような活動は必要ない』といわれさすがにへこんだ」と言っていました。異国の地での苦労は相当こたえたのではないのでしょうか。また、一日5回食事（三食の間におやつタイムがある）があり、持ち寄ってシェアするのが習慣だそうです。ゆんたく好きでも毎日続くとさすがに付き合うのに苦労したそうで、一時はフィリピンが嫌いににもなりかけたそうです。

それでも、うちなーんちゅとしての人間力、ゆんたく力を武器に、職場に徐々にとけこみ、上司ともじっくりと時間をかけて話すことで皆積極的に活動をサポートしてくれるようになったそうです。また南城市での取り組んだ経験をもとに、地域の資源を見つめなおし、昼食をとる場所を工夫する必要があるからと、南城市のカフェの方を招いて、現地の食材を利用したエコお弁当も発案！日本からの観光旅行の企画売り込みにも成功したそうです。

これから、日本の旅行会社が企画した日本からの観光旅行も実施される計画です。



（現地の食材でつくったエコ弁当）